

## 第6回定山溪観光魅力アップ構想検討会議

### 議事要旨

#### ■開催概要

日 時：平成26年9月16日（火）13：00～15：00

場 所：ぬくもりの宿ふる川 3階会議室

参加者：佐藤委員、布村委員、橋場委員、長谷川委員、濱上委員、濱野委員、古川（善）委員、  
松田委員、山田委員

（欠席：金川委員、古川（雅）委員）

オブザーバー 陰元連合町内会副会長

事務局 札幌市 高野、高松、札幌、西

（株）KITABA 酒本、内匠

#### ■意見交換

・観光設備や観光スポットなどの環境整備の中にぜひ岩戸観音堂のことを含めていただけるとありがたい。今閉鎖されている中に観音様がずらっと並んでいる状況なので、開放できるような施策をとるか、観音様を別の場所に移すということを検討していただきたい。

・150周年になるので、150年史をぜひ編集したい。

・もう少し歴史のある温泉地だったら何年史だとか、たとえば定山溪温泉史のようなものが必ず出ている。北海道温泉地にはそのようなものがないので、あるとしても、せいぜい市町村史などである。

・北海道新聞から出た「定山溪温泉」というものがあるが、そういったものと違う感じであったら150年史・定山溪温泉史というものが出ると価値が上がると思う。

・歴史についてはきちんと調べている方がいる。

・今回の検討委員に公募するにあたり、まちづくりセンターで若い方から定山溪に関するいろいろな資料を読み取ってもらった。とてもいい資料ばかりでどの角度からも大変素晴らしいと思った。何かをするというときは、ひとつではなくいろいろな角度から語るものがあるべきである。

・150年史というものを作る場合も、そのように多角的に、今活躍している若い世代の動きや、我々シニア世代から見た定山溪を表し、行ってみようかなと思ってもらえるものにしてはどうか。今がいいタイミングだと思う。

・看板にチョークアートでいろいろ書くという取組を行い、温泉＝和風ではなくて、洋風のようにしてはどうか。何のお店だろうという感じで、そういった変わった看板を置いて、観光客の目につくようにしてはどうか。

・ウェブやSNSに関して言うと、もう少し具体的なものがあってもいいのではないかなと思う。

・ウェブであればウェブ上の広告、もしくは自分たちのウェブサイトをもっと強化する。定山溪のポータルサイトのようなものを作って、こちらからどんどん発信していくという体制づくりをしてはどうか。

・SNS も同じで、Facebook や Twitter、YouTube や デイリーモーションのような動画サイトまで使えると思うので、そういうところまで多角的に取り組んではどうか。それだけの魅力的な画はたくさんある場所だと思うので、もう少し具体的などころまで踏み込んでいいと思われる。

・P26 温泉街のにぎわいについてだが、温泉街というのは普通、共同浴場から始まる。

・例えば草津の場合、最初は店も宿もなかったが、そこから出たお湯を湯畑の近くに引いて共同浴場を作り、今でいう日帰り入浴客を目当てに山の幸や海の幸などのいろいろな市が立って、それが段々と店になっていく。

・そのうち、日帰りではなく泊まりたいとなっていき宿ができるが、宿には風呂がないため、共同浴場へ入りに行く。そのうち、お湯がふんだんに得られるようになると宿の中にもお湯を引っ張ってこられるようになる。これが内湯である。

・お湯が湧いているところを中心に、周辺に円を描くような形で温泉街が形成されていくわけで、これが基本的な湯町の形成である。これにのっとるのが日本人にとって癒しの原風景になっていく。

・定山溪の場合は、昔おそらく川のところに露天風呂があったりしたが、今これほどの規模の温泉地で共同浴場がないということは決定的なマイナスになる。

・今は各宿で日帰り入浴ができるようになってきているが、そういう共同浴場を作ることによって「かっぱの湯」や「定山の湯」など、その歴史的なものを表すデザインの共同浴場ができればよい。

・他のホテルの邪魔にならないように、大きなものにする必要はないが、宿泊者はもちろん、経営者の方々も週に一回、裸で忌憚ない意見を交わすということもできる。共同浴場がないことが、札幌市民がここに来ることができない決定的な要因ではないか。

・例えば有馬温泉であれば「金の湯」「銀の湯」などのどこの温泉地にも共同浴場がある。

・私の評価の中では、共同浴場のない温泉地はほとんど評価しない。なぜならそういうものにとっていないからである。または、共同浴場があったのに閉鎖してしまったら何か欠陥があると考え。だが、定山溪は欠陥があるどころか、これだけお湯があるので、これは決定的に足湯や手湯よりもにぎわいを作るための大きな素になる。

・もちろん費用はかかるが、定山溪の入込み客は決定的に増えていくことは間違いないだろう。そういう中で宿泊客も増えていくかもしれないし、全国に定山溪がきちんと発信されていないとすれば、共同浴場がないところが問題ではないか。

・登別に「さぎり湯」というのがある。今は、街のビルの中に入っているが、近隣からたくさん人も来るし、地元の人もある。

・今、年間約 20 万人と多くの人々が利用しているのではないだろうか。「さぎり湯」という昔からの共同浴場ができることによって、登別の価値がぐっと高まっているが、こういったところが定山溪にない部分である。

・作るか作らないかは皆さんの議論や、予算との関係、ホテルとの関係というものも出てくると思う。ホテルにはマイナスにならないと思うが、ぜひ年間百数十万人が宿泊して、今後外国人観

光客が増え始めていく定山溪に基本中の基本というものを、それこそ「150年の記念の湯」という形でよいので必要ではないか。

- ・そんなに土地はなくてもいいが、宿の宿泊客が簡単に行けるよう、または宿泊客をさらに増加させるためにはこの中心部に共同浴場ができればよい。

- ・阿寒にも「まりもの湯」というのがある。ほとんど知られてないが、しっかり温泉供給会社が管理しているものがある。そういうものの存在が温泉好きな人たちにとっては非常に重要で、そのような温泉が好きな人たちは発信力が非常にある。

- ・すすきのでも共同浴場とは言わないけれど、そういう温泉ができてしまっている。それまでは圧倒的に定山溪に泊まっていたと思うのだが、札幌オリンピック以来、定山溪はすすきのに負け続けている。

- ・やはり共同浴場がないことは、温泉地として欠陥とは言わないけれど、非常にマイナスになるのではないかと思う。それをぜひ議論していただきたい。

- ・共同浴場という一番大きな部分が抜け落ちていたので、発言させていただいたが、むしろ大浴場のない温泉地を探すことは本当に難しいことである。

- ・観光案内所の窓口でたまに「共同浴場はありませんか」という質問をする方がいる。

- ・例えば共同浴場ができれば、定山溪の知名度や関心度はぐんと上がっていく。ここの定山溪地区の人たちの共有の財産として、みんなが関わるようなことができればいい。

- ・少し難しい話だが、先ほどの観光協会の話につながる部分があり、まず一つに個人化が進んでいて、観光協会の役割が重要である。

- ・なぜ重要かというと、個人化が進んできたときにどんどん定山溪をそぞろ歩きをして、いろいろな定山溪を体感するような動きを我々が作り出していかなければいけないし、お客様も求めている。

- ・その際に、まず観光協会の役割というのが、お客様に対するご案内と、そういう動機付けを先にするための情報発信をするかが非常に重要になってくると思う。

- ・その中で、一つモチーフになるような、例えば定山溪に来れば入れる共同浴場とか、そういったものがあると非常に強みになってくる。外に対しても、定山溪温泉に共同浴場がしっかり整備されていると非常にわかりやすく訴えられると思う。

- ・定山溪の観光協会の役割については、お客様が出歩いてその場所に来てどこにいったらいいのか、何を体験したらいいのかということをお客様に対して定山溪はこういうところなんだという魅力をどんどん発信できればと思う。

- ・これから定山溪に限らず、観光協会の役割は非常に大きくなると思う。これは各地域の温泉地をどのように外に発信してお客様にご案内するかということで、観光協会同士の戦いというか切磋琢磨が必要になってくる。

- ・その中でも、さらに影響してくる洞爺・登別の観光協会と連絡を密にしながら、お互いにお客様を融通するくらいの感覚で北海道の観光地はどんどんよくなっていくのではと思う。かなり壮大な話になるけれども、とにかく協会の役割とインフラと機能をしっかり見据えた動きというの

をしていきたいと思う。

- ・もちろん難しい問題がたくさんあると思う。定山溪として一番大切なことは何かと考えたところ、やはり札幌の市民の方たちが定山溪というものに対して、もっと気軽に足を運んでいただくための努力というものは定山溪側からももっと取り組んでいく必要があるだろう。

- ・そのひとつとして共同浴場はどういうモデルか、その場所によって違ってくると思うが、例えば市民の方であれば入浴代がかからないとか、そういう共同浴場ができれば、札幌市民はたくさん来てくれ、市民が定山溪は本当に素晴らしい温泉だというふうに言っていたりするような場所になるのであれば非常に面白いと思う。

- ・もしそういう流れがまた別にできると、今まで定山溪に来ていない方たちが定山溪の温泉に入りに来ることになるだろう。そうすると、今ある様々な商店などもお客様が来ることになるので、地域としても整備されて、他の観光地と比較しても非常に競争力のある観光地になっていくのではないかと。実現は非常に難しいとは思いますが、チャレンジできたら面白い。

- ・入浴料をいただいて、さらに入湯税が出てくることになる。

- ・一番心配しないといけないのが駐車場である。駐車場のスペースが普通に得られれば、定山溪であれば年間で簡単に20~30万人は集客してしまうと思う。そうすると今シャッターが閉まっている店も、それに対応するような店になっていく。

- ・ほとんどの温泉地は共同浴場などを作り終わった後にできるものなので、定山溪ならではのものは、他にないものを作る必要はある。一番心配なのは、やはり駐車場のスペースであり、それ以外でほとんど失敗することはないと思う。また、入湯税も見込める。

- ・問題は各ホテルや旅館でも日帰り入浴の対応をしているので、それとの絡みなども配慮していないといけない。費用はかかるが、新たな定山溪のにぎわいをつくっていくための大きな攻めやすい要素の一つになることは間違いない。

- ・これから高齢化が進み札幌近郊の方が車で定山溪に来る人が減ってくるかもしれないので、そういった方々が来やすいようにするため、定山溪までのバス停に待合室が必要である。

- ・今までの、各委員の意見の中にもあるが、観光協会の機能の強化というのはこれから構想の実現に大変大きな意味を持っているのではないかと。まさにここに行政の支援が求められていると思う。

- ・まずは観光協会の財政基盤をきちんと確立するような機能強化の中で、何か事業につながるような方法を打ち出していくことが必要ではないか。前回もそういった議論があったが、共同浴場という考え方もそこに大きな位置づけとして意味を持ってくる気がする。

- ・いずれにしても、定山溪の事業者であるホテルと観光協会などの財政基盤を含めて、二つで機能していくことが大事なことであると思う。

- ・観光案内所の整備というのは非常に大きな一歩である。観光案内所の整備を具体化することになると、観光協会の充実化、それから駐車場をどうするか、バスターミナルを含めて札幌市外からお客様の交通アクセスをどうするかというところを検討する必要がある。

- ・要するにこれはまちづくりである。
  - ・観光協会の役割というのは情報発信にしても、公衆浴場にしても、やっぱり大きくなっていく。
  - ・今までと違ったような役割を観光協会に与えないと、何か考えていかなければまずいのかなと思う。たとえば道の駅の運営主体を誰にするか、観光協会でなければその誰かに主体を任せるだとか、そういったものをしっかり念頭に置かないといけないかと思う。
  - ・城崎温泉は外歩きがすごく多く、定山溪はいろいろお話を聞いても外歩きをする人が少ない。昔はいたが、今は少なくなったというお話を聞いて、なんでそういうことが起こるのだろうと思ったら、先ほどのお話を聞いて、公衆浴場の利用の仕方ができていないということであった。
  - ・城崎温泉は基本的には公衆浴場がたくさんある。それもすごく整備されていることも、よく外歩きする要因のひとつではないか。
  - ・もうひとつすごく疑問に思ったのが、アクセスの問題である。先ほど駐車場のことが出たが、城崎温泉はあまり駐車場がない。それなのに、人がいっぱい歩いているのはどうしてなのかを考えていたが、要するに駐車場の利用のされ方、公共交通機関の利用のされ方というものが違うのかと思う。そういう意味で、駐車場はキャパとしてはたくさんあるが、やはり最初に言った公共スペース、公共のものがあつたときにそれを共同利用するシステムをどういうふうにつくっていくのかがすごく大事で、その主体がどこになるかというのが次の問題としてある。
  - ・その場合、今観光協会の役割になってくるのが、札幌市の後押しが必要になってくる。この調整というのがすごく大事になり、そういったものをひとつひとつクリアにしていかなければ次の発展は見えてこない。
- 
- ・城崎というのは山陰の兵庫県の日本海側にあり、アクセスは関東とか他から行くには飛行場がないので不便なのだが、JRの駅があるため、京都や京阪神からたくさん来る。
  - ・日本の温泉浴の発祥の地で、日本で最も温泉地らしい温泉地である。お湯のレベル以外は一級レベルの共同浴場が7~8つあって、中でも「一の湯」というのは名門中の名門になって、浴衣を着て共同浴場巡りをする。宿泊客は無料で入れるが、日帰り客は入浴料を払う。共同浴場を巡り、まちを歩き回ることのでぎわいになっていく。あとは、地ビールがあり、土産物店が元気で、他にそうないというくらい街全体がにぎわいを作っている。
  - ・我々日本人の頭の中にある、円山川の支流の大谿川がここと同じようにど真ん中であつて、太鼓橋がいくつもかかつていて、しだれ柳が川沿いであつて、ここと違うのは建物がほとんど木造である点だが、そういうにぎわいのつくり方のひとつとして共同浴場は一度見ておかれたらいいと思う。
  - ・ぱっとイメージしたのは、大きな共同浴場を建てるスペースはないし、大きなものは費用もかかるので、これから先10年とかそういうスパンの中で、それほど大きな規模ではないけれども、複数の特徴的な共同浴場を作つてはどうか。
  - ・城崎は非常に特徴的で、全部つくりが違ふ。中には豪華な露天風呂付きの共同浴場もあり、無料で入れたりする。要するに各宿の宿泊客や地元の人との交流の場になるし、ホテル・旅館の経営者の方たちもそこで風呂に入りながら会議するのもいいかもしれない。
  - ・有馬も共同浴場「金の湯」「銀の湯」が非常によいから、あれだけ人がそこに集まってくる。共同浴場は観光客の増加の決定的なものになることは間違いない。

・今すぐでなくてもぜひ、できれば150周年に向けてひとつくらいは札幌市の力を持ってすればできるのではないか。他の温泉地は人口数千人のまちでもやっている。

・人があふれるくらい来ることになると思うので、ぜひそういうことを検討されることは必要。  
・熱海にもあるし、伊東にも6~7つ共同浴場がある。これは和田湯とか歴史的な江戸時代よりも前からのもので、それをきちんと守って、そこに入りに来る人たちが東京方面からたくさんいる。

・共同浴場であるが、先ほどのお話だと温泉街の成り立ちとして最初に共同浴場というお話があったと思うのだが、後付け的に共同浴場を作っても大丈夫だろうか。

・それは大丈夫。ここは当然、共同浴場というか皆が入る風呂から始まったはずなので、それをまずシンボリックなものとして作っていく。

・北海道の場合には歴史が新しいこととお湯もふんだんにあったので、宿にはじめから温泉が付いているものが普通だったのかもしれないけれども、定山溪のように150年とかその前からのやつであったら、当然湯屋など泊まる場所がなく風呂だけ簡単であってというものから始まっていたらいいことは間違いない。

・また、後付けでさらにそういう共同浴場を現代に合わせて作っていくことも問題ない。  
・一箇所で大いなる共同浴場をやって駐車場で問題になるよりも、小さな共同浴場を将来的に3つくらいとか、せめて2つくらいあればバランスが取れる。  
・そういうことも考えられたら楽しくなるのではないか。風呂に入る人たちも楽しいし、地元の人たちも夢を描くことができる。北海道ではその部分が最も意識されていないところである。城崎に行かれましたら絶対に意識が高まると思うし、日本人の品性に共鳴すると思う。

・昔かなりいろいろな各地のプロモーションに関わらせていただいた中で一番面白いと言われたのが、時計台と定山溪と一緒に写っているポスターである。札幌市の中にあるのか、という声がかかり多かった。

・若い人たちと話す、登別とは読めても「じょうざんけい」とは読めない。「お坊さんの名前ですか？」とか「ていざんけい」と読んでいた。洞爺のサミットがあっても洞爺はまだ読めない状態で、読みやすい名前をひらがななりローマ字にしていけないと、僕たちが思っている以上に本州に行くと「ていやまけいですか？」という言い方される。

・全国の観光地に行っているが、その中で一部の国の人たちを受け入れないという地域がかなり増えてきている。道内でもそうだが、観光地が荒れるということで、首都圏・関西圏をターゲットにしたプロモーションと海外に行くのは別物だと思う。個人的にはどちらか一本に絞っていかないと混同してしまった場合には、我々の戦略は揺らぐ形になる。

・先ほど申し上げた札幌市の中にあるんだということが最低限一番伝えたいことである。  
・オオドオリ大学のようなパターンをこの地域で作れないのかなと思う。どの程度成果挙げているのか、メールマガジンを取ったり何度か参加はしているけれども、あのようなスタイルで参加を求めていった方が多分地元の活性化だったり、刺激になっていくのかなというふう感じた。

・先ほどから協会の重要性というのは皆さんお気づきになられていて、その中で協会の受け皿と

しては人材という部分が非常にこれから大切になってくる。

・これには当然協会内での地ならしという話は必要になってくるかと思うのだが、北海道や札幌市ではこれからの観光というのは非常に重要な産業のひとつだという認識は高まってくると思うのだが、その中で定山溪の150万人の入湯客、宿泊がある温泉地がある札幌市で、観光協会に市の職員がいないということはこれから問題になってくるのではないかな。

・ここ数年、非常に札幌市観光文化局に気にしていただいて、これをしっかり継続もしくは今描いたものを実行していくにあたり、やはりそういうしっかりとしたパイプが必要になってくるタイミングではないかと思う。

・互いに、定山溪観光協会としても考えていかなければいけないことで、そのあたりも少し議論していく必要があるのかなと思う。

・パイプがあり、観光に明るい人が協会にしっかりと関わっていかなければいけない。その辺のハード以外のソフトの部分での課題というのもあると思う。

・今こうやって動いている話は住民の方は知らない。新聞など出てきたらお気づきになる方がいるかもしれないが、やはり定山溪が今後こういうふうになっていくという姿というものをしっかりと住民、それから市民の皆様にお示しし、あくまで夢というとらえ方で結構だが、ランドデザインを、「定山溪がこうなるんだよ」「将来こうしたいんだよ」というものをしっかりと発信できるようなものをぜひ持っていきたい。

・過去の温泉地を見ると、一貫性のある温泉施設というのは常に第一からの考えに基づいて温泉設計をされている。これは我々が今お話させていただいて、こうしたいという想いというのはずっとつないでいかなければいけない。

・ぜひ今回のプランをある程度土台に乗ってくるものと分けていただいて結構だが、定山溪をこうしたいという魅力的なランドデザインを情報発信できれば、150周年につながってくると思うし、ずっとこれを目指して皆で頑張ろうとなり、ここでお仕事したいという人も出てくるのではないかなと思う。

・アプローチと将来像については、前回ご議論いただいたが、最後確定まではいかなくても少し絞り込んでいただきたいと思う。奥座敷というものについては、かなり良し悪しがあった中でまだ記載をさせていただいている。それから目指す将来像はいくつか書いているので、そのあたりを含めてご意見いただきたい。

・また、10年先を考えると、滞在型にならなければいけない。そして小金湯や八剣山などは日帰りで行くところだというイメージから、定山溪に滞在しながら行くことができる場所というイメージにしていく必要がある。

・奥座敷については、個人的にありだと思う。いずれにしても定山溪というのを例えば札幌市、北海道、大きく見ると日本という中でどういう立ち位置にするかによって変わってくる言葉ではないかな。

・先ほどのお話の中で時計台と一緒に写っている写真というかポスターに魅力があるということは、札幌市の中にこういう場所があるというアプローチはおそらく間違っていないのだろうと感じた。なので、札幌市における新・奥座敷のような立ち位置、そういうような括りで考えたとき

に、個人的な意見としてはいいと思う。

・この中で選ぼうと思ったら案2の「湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季めぐり一定山溪」が一番よいと思われる。一番具体性がある、何を定山溪でさせたいというのがはっきりしているかと思う。ただ、想定されるキーワードとして下に入れ込みたい言葉はあるけれど、よい案が全然思いつかない。いずれにしても、これを見れば定山溪しか思いつかないという言葉があればいいなと思うし、それに一番近づくのは案2だと思う。

・定山溪という漢字をひらがな表記にするというのも検討すべき課題だと思う。下手したら北海道民ですら読めない地名かもしれないので、そういう考え方もあると思う。

・将来的に共同浴場ができれば、やはりこの新・奥座敷も生きてくるし、元々新・奥座敷は残したいと思っていた。

・定山溪というものの歴史は、本当はいろいろなことを調べると元々の起源はアイヌの方にあるのだが、今回は省略させていただく。

・もし共同浴場ができれば、こういった歴史的なこともわかり、子どもたちと一緒に気楽にリーズナブルに入れるので、日帰りだけでなく、泊まりに行こうかというふうにとどんと広がるので、そういう意味で新・奥座敷は支持する。

・将来的に目指す将来像の言葉がどれもあまり好きではない。なんとなく嘘臭いと言うか、もうちょっと自然体というか本当に定山溪というのはすごく素晴らしいものを持っていて、こういう言葉を使わなくても皆さんいらっしゃるような気がする。

・今は本当に若手経営陣が一生懸命やっけていらっしゃるし、だから簡単に「湯あそび、森あそび、水あそび」と言ったらすごく軽い感じがする。

・またリゾートとなるとまた意味合いが違ってくると思うので、もうちょっと格式がある言葉がよいのではないか。

・それはちゃんとキャッチコピーを作る専門の人にやってもらえばいいのだから悩む必要はない。イメージだけをきちんと出す必要がある。

・ただ、共同浴場があるということは本当ににぎわいが違ってくるんだというイメージが湧く。

・新・奥座敷については、新とつける以上は何か変わらないといけないから共同浴場ができれば変わる。

・これから先、観光客が入ってくることを考えたらやはり奥座敷というやつの最低限英語表記が必要。それがおそらく奥座敷で英語というのは、ないと思う。それを考えていかななくてはならないということを、ここにいる皆さんで共有したい。前回奥座敷に対して噛み付いた理由はそれである。これから外国人が増えるはずなので、そのときに外国人にイメージしやすいような言葉にした方がいいのが理想である。

・将来像については、ここに出されたものは予定調和である。要するに質問に対する答えが全く見つからない。そこには、何の期待感もないし、踊る気もない。少しでもそれを感じさせるもの

があったらいいなという感じがする。

・例えば案5では「湯あそび、森あそび、水あそび」となるが、案2では「湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季めぐり」で、案5には「四季あそび」がない。これを入れるだけで「四季あそび」って何だろうかと、すごく意外な感じがする。そういったちょっとした工夫があってもいいかなという気がする。

・それはキャッチコピーを考える人が考えることかもしれないが、そのキャッチコピーを考えるときに少し意外性を入れてみるということは必要ではないか。

・前回、奥座敷の意味として濱野委員から意見があったが、奥ゆかしさとか、ゆとりとか、温かさとか、温もりとか、そういう意味が奥座敷の中に含まれているのであれば、新・奥座敷の新しいイメージももう少し押し出していけるかなと思う。

・「都市と自然が共存するスローリゾート・定山溪」というのは言葉の意味としては優しさとか温かさとかを感じるが、いずれにしても今個人客が主体に観光客が変わりつつあるというこの現状を考えると、その個人客が家族であり仲間でありという形につながっていくのかなと思う。それゆえに奥座敷というのは意味があるのかなと思う。

・いっそのことローマ字でもいい。定山溪もひらがなと漢字だけとイメージされているけれど、ローマ字でもいい。そういう方向もある。

・新・奥座敷という言葉は、あくまで構想上の魅力アップとしての言葉である。

・新・奥座敷というのは今までの温泉街だけではなくて、周辺環境も含めたという意味で、奥座敷という一般的に熱海は東京の奥座敷というように都会都心部からちょっと離れたところにあるというイメージである。今は札幌の奥座敷の定山溪ということで、おそらくこれ自体キャッチコピーにはならない。また、アプローチだから新・奥座敷へと言っているが、意味合いが違うと思う。

・前に出ていたような「北の都」については、おそらく今「北の都」といえば芦別である。単純に将来のキャッチコピーだとすれば、たとえばいろいろ温泉があり北海道の奥座敷とは言わないので、そこの少し形を変えて「北の奥座敷」とか、そういうふうに言えば、道外の人たちから見れば関東の人は向こうの奥座敷は熱海だけれど、北の奥座敷ということで北海道のイメージだとかも出てくるのではないか。

・アプローチとキャッチコピーとは少し違う。ここはここで周辺環境もしっかりとらえた上で言うのであれば新・奥座敷でいいのかなと思う。

・ただし、キャッチコピーで新・奥座敷にはならない。新・奥座敷・定山溪へと言うと何か新しいものができるようなイメージになってしまう。

・これからおそらく構想の段階からランドデザインや事業計画に入っていく中で、これらをセレクトしていけばいいと思う。

・奥座敷ということをご共々共有していただいたということで、アプローチは奥座敷というキーワードで、一旦事務局預かりでここに書いてある新・奥座敷へというような意味合いで考えさせ

ていただきたい。

・また、将来像の方で、「湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季めぐり一定山溪」がよい、「都市と自然が共存するスローリゾート・定山溪」がよいというご意見があった。ここで確定するわけではないので、今後の定山溪の将来イメージを表す言葉としてこういうのを入れ込んだ方がいいのではないかとすることがあれば意見をいただければと思う。今日決まらなければ我々も言葉のプロを入れてじっくり考える。

・例えば案4のように「札幌定山溪」ということで、先ほど定山溪はどこにあるのかというお話もあったと思うので、定山溪単独ではなくて「札幌定山溪」というワンフレーズとして発信していく方がいいとかそういったご意見があればいただきたい。

・この中だと、現状「湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季めぐり一定山溪」が一番やることが明確になってくるなという意味で賛同したい。ただ、これは定山溪を表現しているけれども、ここまで言うと豊平峡の周辺まで平面的にとらえるので、定山溪温泉郷というふうにしてもらえると少し広がるのかなと思う。

・全然違う質問になるが、この検討会議は今回が今年度は最後なのだろうか。

・一旦、素案としては今回で終了になる。あとは、庁内調整させていただいた中で内部的にもいろいろな意見が出てくると思う。また、パブリックコメントで市民の皆様からいろいろなご意見出てくるので、そのあたりで大きな修正点があればもう1、2回は行う可能性は残させていただきたい。

・平成27年3月に一応まとめ、その後、10年間かけて具現化する予定と聞いているが、個別は別として今の段階で考えられている優先順位というか、そういう具体性はまだ出てきていないのだろうか。来年度になってからそういう具体性が出てくるのか。

・とりあえず、昨年度1,000万円という補正予算で今繰り越しして始めるところなのであるが、とにかく今やらなければならない老朽化したものの改修というものがあるので、まずそれを優先させた上で、それから次のステップに進んでいく予定である。

・まず老朽化したようなものを来年度に入ってから具体化していくということだろうか。

・来年度は来年度でまた予算要求していきたい。

・観光協会として、また事務局としても優先順位をつけて老朽化したものを含めて早くできればと思うので、お願いしたい。

・この10年間の中で再来年の開湯150周年というのがひとつのきっかけになるし、おそらく後年

次になると思うが、国道拡幅がそのタイミングになる。その部分がひとつの山になる。

・「湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季めぐりー定山溪」をベースに「四季めぐり」ではなく「四季あそび」くらいの意外性、少し引っかかるような感じで考えてはどうかというご意見、定山溪温泉郷とした方がいいのではないかというご意見もあったので、このあたりを含めて事務局でもう少し考えてきたい。

・この後のスケジュールとしては今日のご意見を元に修正して、庁内会議に向けてパブリックコメントで市民の方にも見ていただき、ご意見をいただくというようなプロセスがある。その中で大きく変わるようであればまた皆さんにお集まりいただいてご意見をいただくという形になる。

・今回のものが現実化するとすごくよくなると思う。ただ、そこに至るまでには現在の観光協会だけでは到底予算面でも人材面で厳しいものになるので、全面的にバックアップいただいて、これが現実化することを期待している。

・併せて、かっぱライナー充実など、単体で見ると採算性が合わないものも出てくると思うものもあるが、いろいろなことを取り組むことによって複合的な相乗効果で最終的に効果が出てくるものだと思う。単体で採算性を見るとなかなか踏み切れないものが出てくると思うのだが、そこは大きな器でご協力いただいて、10年後20年後の定山溪というものを期待していただいて、投資していただければ大変ありがたい。

・先日、ニセコの比羅夫に行ってきたが、あの場所はほぼ海外になっている。小さい娘がいるので夜は出歩けなかったが、行った瞬間に出歩きたくなるような町並みに変わっている。あそこに関しては海外の方々という新たな担い手が出てきてそういうふうになったので、定山溪もたくさん魅力があるものがあるので、それにプラスアルファの魅力を加えて札幌市民がワクワクできるような形になればいい。

・将来像の言葉でこれからの定山溪はこれを目指そうというものがピタッと決まってこないと描けないなというふうに思ったのが正直なところである。

・最後お話にもあったように、ニセコもそうなのだが、定山溪で何かやってみたいという人がどれだけ増えるかが、定山溪のこれからの重要なところだと思うので、少しでも今ここで住んだり、商売をしていたりする我々がこの定山溪をより新しい人が入りやすいような、入ってきたくなるような環境作りを進めていけたらと思う。

・一人の札幌市民としてよそから来たお客さんに自慢できる温泉地であってほしい。先ほど、城崎温泉のお話があったが、私も知り合いから誘われて3年前に城崎温泉に行ってきたが、本当に素晴らしい温泉で、まさしく地元の人たちが自慢できる温泉であった。歴史は全然違うが、定山溪温泉もそういう温泉にぜひなってほしい。

・市の予算を使うということを我々は非常に責任が重いという自覚を持たないといけない。そういう意味では市民の方々に愛されるような温泉地を目指す。

・これからの時代、海外・道外の方に来ていただいて雇用をさらに創出するようにならなければいけない。そういう意味では私も若い世代がしっかりと地元の商売をやって、かけていただいたお金のしっかりと費用対効果を出せるようにしっかりとしていかなければいけない。

・観光協会とホテル組合の事務局の移転に関して、できるだけ早めにセッティングをされるようお願いしたいと思う。

・沖縄に毎年のように調査などで行くが、国際通りが数年の間ですごく変わっていた。公共工事や何かで変わるのだなと思った。

・何かに公共性をもったところが取り組むときに、方向性がすごく大事で、その方向性というのは、例えば定山溪を変えたとするならば関連する皆さんで一生懸命話し合うことがすごく大事である。

・間違えたと思ったらすぐ方向転換できるような体制、柔軟性が少なくともまちづくりであるならば、一番大事な要素ではないか。

・将来像に関しては、これでは見えない。わけがわからないため、あまりイメージを膨らますことができない。

・それから美泉定山については、もっと歴史を遡って松浦武四郎くらいまでせめて持っていったらもう少し膨らませておく必要がある。そういうことを含めて定山溪温泉塾のような取組をして、少なくとも若手の次の世代の人は今、活発で、きちんとした見識も持っているので、定山溪の人たちの勉強もそうだし、札幌市民にも参加してもらえるようなものを作るとよいのではないか。

・歴史的なものをきちんと学びながら、温故知新という言葉は単なるあやではないので、必ずそこに戻っていくこと、そこから新しいものをさらに付け加えていくことが非常に重要である。

・そういう意味で今日ここにきた意味は150年史を出そうというところで、私が編集長になってもいいと思う。

・皆さんが本当にこれで将来像が描けるのならこれでいいが、もう少し何か詰めておく必要があるのではないか。あまりにも漠然と、こういうふうにいけば全てが網羅できるというものになってしまっているのでもう少し絞る、もしくは強調するということがあってもいいのではないか。

・毎回きちんとまとめていただいているので、非常にやりやすくこれは札幌市のレベルの高さだと思う。

・本当に多大なるご協力、また貴重なご意見を賜り大変感謝している。

・今回の検討会議でこれをたたき台にして、これからのグランドデザイン、それから計画の方に反映させていただきたいと思う。

・日程的には、これから札幌市で市長・副市長会議にかけ、それから議会の報告をする。それから一般市民の方のパブリックコメントを通して、昨年度作成した観光まちづくりプランの中に反映させていきたいと思っている。

・いずれにしても今後新しい定山溪に生まれ変われるように我々ががんばるので、よろしく願いしたい。